拓水

題字は　県漁連三浦会長

10月号

No. 133

発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産業改良普及協会
神戸市兵庫区新在家町 123
発行人　三浦清太郎
TEL (67) 6685・(68) 6954
編集　拓水編集委員会
発行日　毎月 30日
一部10円
昭和32年10月18日
第3種郵便物認可

昭和四十一年度
漁協共販の概要

昨年兵庫県で獲れた魚の量と売上高は、十万八千トン約七十二億円で、三十八年と比較すると約三十%売上げが上昇しています（三十八年度五十五億六千万円）このうち、漁協の共同販売所を通じて販売されたものは、五十四億四千万円で七十五%でした。また漁業協同組合で販売事業をしているのは、沿海八十三組合のう四十九組合で残りの三十四組合は組合員が直接仲買人、小売人または最寄りの魚市場に販売しています。

七十二億円の魚がどのように消費されているのかを見ると鮮魚、即ち生まのまま消費されたのは、五十四億三千万円、四万八千トンで加工用の原料となったのが十四億一千万円、三万二千八百トン、ハマチ等の養殖の餌料となったは三億二千万円、二万三千七百トンでした。

鮮魚のままで消費された五十四億三千万円の内容を見ると、県内で消費されたものが最も多く三十七億四千万円で、全体の五十二%をしめております。また鮮魚のままで県外に移出販売されたものは十六億九千万円で二十三%でした。

さらに県内の消費地別内訳を見ると、漁協地元及び近隣市町の消費が多く十四億四千万円と全体の二〇%次が神戸市で九億七千万円明石市五億三千万円、姫路市三億七千万円その他四億の順でした。

また県外に販売されたものでは、大阪が多く七億四千万円、京都三億円、名古屋一億三千万円、東京一億二千万円その他三億八千万円の順でした。

これを海区別に見ると、

一、摂津海区

組合数十一組合で総水揚は、五億四千万円二万五千トンで漁協で販売事業を行なっているのは四組合でその売上高は約二億円です。

消費の面では、非常に恵まれており、鮮魚のままで消費されたものは殆んど地元近隣市で約三億七千万円が消費されております。加工用原料及び餌料用として一億八千万円一万六千トンが販売されております。

二、播磨海区

明石市から赤穂市にいたる間に三十四組合があり、売上高は十七億、量では一万九千トンで漁協共販事業をしている組合は、十三組合で残りの二十一組合は殆んど漁業者が直接魚市場に販売委託をしています。

このようなことで、消費の方は殆んどが県内消費で約十七億のうち十三億九千万円の八二%が、県内で消費されております。

県内消費で最も多いのは漁協地元及び近隣市町で、六億一千万円次いで姫路市の三億三千万円、神戸市三億その他となっております。県外は大阪、京都、岡山、東京方面で約一億五千万円、加工用原料五千万円餌料向け一億円でした。

三、淡路海区

淡路島一円で三十組合水揚高は、約二十四億円、二万五千トンで販売事業をしている組合は二十四組合で組合の販売実績は十八億六千万円と約五億四千万円蕊があるが、これは淡路島北淡地区が夏期明石の昼市に漁船直接販売する慣習が続いているためで共販事業をしていない組合だけの水揚は、約二億円である。

消費面では、県内消費が五十九%の十四億、地区別では神戸市五億、明石市四億六千万円、地元淡路島内消費三億二千万円その他県内一億二千万円でした。

県外消費では、大阪四億京都一億、和歌山八千万その他で、加工用原料には一億四千万円餌料用一億三千万円でした。

四、但馬海区

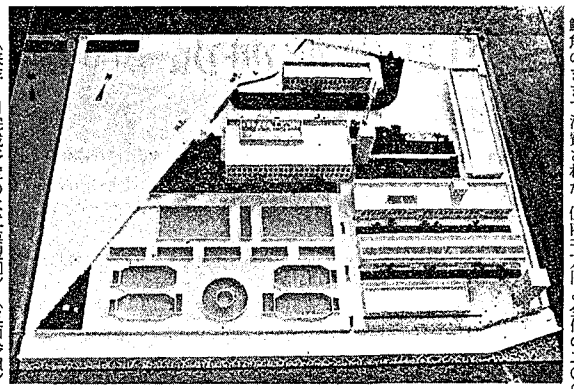
海区別では、この海区が一番多く八組合で総水揚高は、二十五億二千万円、約三万五千トンでした。

消費の内訳は、鮮魚の食用向五五%十三億八千万円数量では、逆に加工用原料が五十四%となっております。鮮魚の消費地は地元但馬地区二億七千万円、次いで大阪の二億三千万円京都一億九千万円、名古屋一億二千万円、神戸一億二千万円、東京八千六百万円その他の順でした。

昨年の県内海面漁業の水揚高とその用途別仕向先は概要以上のとおりですが、この概要で、わかりのように内海側で共同販売事業を実施していない組合が非常に多い事です。内容を見ると一組合年間水揚高が二千万円以下が二十二組合という事で、共販事業が出来ない所に問題があるようです。また販売事業を現に行なっている組合でも実質的には買手側の一方的な価格形成の場となっている所もかなりあるので、今後の目標として二組合三組合または一組合以上の組合を対象とする販売事業を行ない組合員の漁獲物が公正に取引され組合員の正当な利益を確保するよう、組合役員及び組合員の意識の昇揚を喚起したい。

この外販売方法、代金決済、共同出荷事業等の諸事項があるが、これらは次の機会にふれることとした。

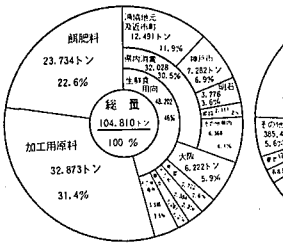
（水産課山本技師）



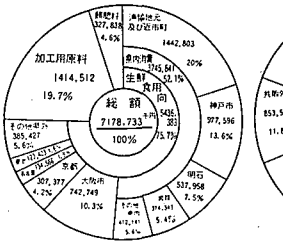
（来年3月完成予定の水試模型図）（三面参照）

漁獲物の用途別仕向先別割合

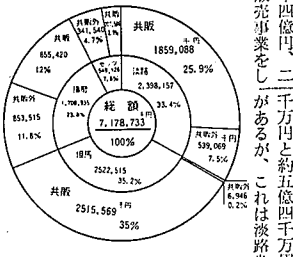
故量



金額



漁協共販利用状況



（但馬の秋色）（沢田撮）

―但馬底曳漁船大和堆出漁―
本年の大和堆スルメイカ漁況と今後の問題点

水試名角辰郎

本年大和堆等を含む沖合スルメイカ釣りには但馬から底曳漁船36隻が出漁、これらの水揚げ高は終漁期までには一隻平均四百万円内外、総額では約一億五千万円位が期待できる状勢となった。この額は但馬全体一年間の総生産高の約6%程度であるが、新しい沖合漁場での収獲という意味で、きわめてその意義は大きい。

港別では津居山の12隻を筆頭に、柴山7、香住7、浜坂1、諸寄5、居組4と全但馬にわたり、図らずも着業船の階層規模別の漁況が得られたことは幸であった。すなわち美方三港では比較的小型の20～30屯階層、香住・柴山では40屯階層、津居山ではほゞその中間の30屯階層というふうにみられる。それぞれの水揚げ高は、出漁期の遅速や、航海数の多少等はあるが、40屯級では500～650万円、30～500、9月300～600と次第に良好となり、8月下旬～9月上旬が最も好漁期であったが、この推移もほゞ平年並みである。たゞ7月北上期のスルメイカは本年は沿岸をも含めて例年より早めであったようで、この点で本年初漁期の状況は例年よりもやゝ悪かったと推察される。本年日本海区水産研究所が行った標識放流結果では6月中旬に大和堆上で放流した「いか」は殆んど7月中旬に佐渡、能登海域で再捕されている。本年は日本海における能登以北の諸県では、以西海域の不漁にひきかえ40%増しの好漁であったが、これは前記標識放流の結果からみて、大和堆からの洄游が相当あったことが考えられ注目すべきことである。

さて本年大和堆ではスルメイカの北上期が早かったことと、漁場が北に偏していたこと等不利な条件があったが、初漁期の漁場の早期発見がきわめて大切なことがわかった。これについては海洋観測等試験船の活躍すべき分野であるとともに、資源的な面ではこゝ四、五年ほゞ安定した漁獲が維持されているといえる。

漁況の推移を一夜一隻当り漁獲箱数でみると7月150～300でやゝ悪く、8月250～500、9月300～600と次第に良好となり、8月下旬～9月上旬が最も好漁期であったが、この推移もほゞ平年並みである。たゞ7月北上期のスルメイカは本年は沿岸をも含めて例年より早めであったようで、この点で本年初漁期の状況は例年よりもやゝ悪かったと推察される。本年日本海区水産研究所が行った標識放流結果では6月中旬に大和堆上で放流した「いか」は殆んど7月中旬に佐渡、能登海域で再捕されている。本年は日本海における能登以北の諸県では、以西海域の不漁にひきかえ40%増しの好漁であったが、これは前記標識放流の結果からみて、大和堆からの洄游が相当あったことが考えられ注目すべきことである。

さて本年大和堆ではスルメイカの北上期が早かったことと、漁場が北に偏していたこと等不利な条件があったが、初漁期の漁場の早期発見がきわめて大切なことがわかった。これについては海洋観測等試験船の活躍すべき分野であるとともに、漁業者自体の中でも集団操業の利点を生かして組織的な動きを展開するということも大いに必要なことであろう。

この漁場探索と関連するが、前述の大型船ほど効率がよかった原因の一つは、操業能力（積載能力）の点である。とくに本年、船型の大小による水揚げの格差は、漁場が遠かったことによる燃料の問題（津居山船ではビニール予備タンクを積載して操業した）、また氷蔵能力による操業日数の制約等が問題点としてあげられる。これらを補うためにはとにかく保冷設備の改良が第一に考えられなければならない。一部ではドライアイス等の積載で魚船温度の低下に若干の効果を得られた事例もあるが、現在の魚船構造では漁獲物の鮮度保持についてあまり氷の節約はできないのではないだろうか、新潟県船によると魚倉温度を常時4°C以下に保てたら氷の使用量を相当減らしても陸揚げの際に色はきわめてよいとのことである。簡便な冷凍装置の導入とか断熱装置については今後の大きな研究課題である。尚基地においても今後着業船の増加により貯氷能力の不足は免れない問題点であろう。

さて最後に大和堆のイカの洄游経路の問題がある。このイカの起源は秋期西南日本海の沿岸海域で生まれ、生育しつゝ翌年春―夏にかけて日本海沖合を北上するが、夏―秋にかけて成熟体に達すると反転南下して沿岸に接岸来遊する。昨年9月大和堆上で放流した結果ではその大部分が10月朝鮮東岸と対馬海域で再捕されたことから秋の南下経路は大和堆うつ陵島～竹島、東鮮沿岸、対馬を結ぶ西日本海沖合のサークルが一応推定されるのであるが、その移動速度は比較的早いようであり、また群の分布の様式がどのような密度であるのかといった点についてはいまだ明らかではない。これらは今後沖合漁場開発の最も重要な目標である。なお本年の結果から、底曳以外の沿岸小型漁船においても協業による沖合イカ釣りを企図する機運が生れているようであるが、7・8・9月以外の時期の操業、つまり周年操業形態の確立は大きな問題点であろう。これについては二、三の資料も取集しているので遠慮なくご照会されれば幸である。

9～10月の漁海況（内海側）

海　況

9月上旬の播磨灘、大阪湾の観測結果によると、両海域の表層水温は27～28°C、沿岸浅部では30°Cに達し、例年水温より1.5°C高目を示した。台風22号は幸い両海域に被害を与えなかったが、9月中旬以降、水温は下降に向い、10月上旬には22～23°Cに低下の見込み。

5月以降低目をつづけていた両海域の塩素量は、9月に入って例年並に回復した。特に大阪湾中南部域の10m層以深は、紀伊水道系水の影響によって、例年より高かんな水塊となっている。また、8月～9月を通じて今夏は一部の沿岸海域を除いて悪質な赤潮現象はみとめられなかった。

漁　況

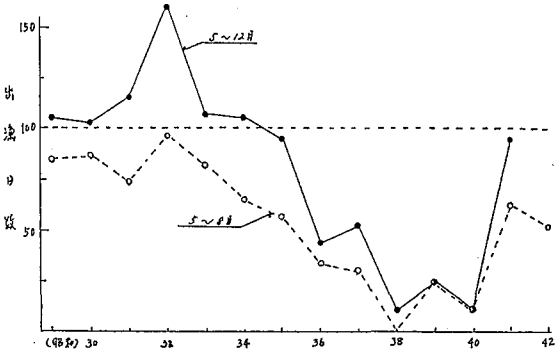
カタクチイワシ　季節的には本格的な漁期といえるが、大阪湾、播磨灘におけるカタクチ魚群は極めて少なく、播磨灘中～北部に漁場が片寄る傾向がみとめられる。9月上旬の産卵調査の結果でも、産卵域はごく狭い範囲であり、産卵量も少ない。このことは、大羽群および中羽群（今年春仔群）の少ないことを示している。前報でものべたように、今年は外海からの当才群の補給は5～7月の短期間でその後中断している。9月中～下旬には多少カエリ、小羽群の来遊が期待されたがこれも望めない模様。これは、紀伊水道和歌山沿岸から大阪湾にかけて、タチウオ群が急増しているためである。

ここで、紀伊水道から大阪湾へ補給されるカタクチシラスの量がどの程度であるか。年々の変化を洲本、炬口の船曳網の操業状況について検討した。シラスのような魚群は、漁期間の総漁獲量の多少よりも、出漁日数の方が補給の連続性という点で重視される。図に示すように、昭和29～34年の間は、年間出漁日数が100日を上廻っていたが、35年以降年々変化し、昭和38～40年の3カ年は、9月以降の出漁がほとんどなく、5～8月の主漁期でも10～25日にすぎない。しかし昨年からやや上向きの傾向を示し始めている。

5～8月のシラス群は、主に太平洋南海域で発生したもので量的に最も多く、秋漁期の中羽群の主体をなすものである。大阪湾におけるここ数カ年のカタクチ魚群は、シラスと大羽群で小・中羽群が少ない。これは外海からの補給の減少と、魚種組成の変化（マサバ、アジ、タチウオの増加）によるシラス期の食害あるいは逃避が大きく作用しているものと推定される。

（アジ、サバ）　カタクチ魚群の減少にかわって、アジ、マサバの漁獲が目立っている。この傾向は10月中も持続する模様。

その他　7月上旬から出現していたタチウオは、昨年同様9月に入って急増した。日本におけるタチウオ漁獲量（年間3～5万トン）は、東シナ海で最も多く漁獲され、7～8年魚の大型のものも含まれる。瀬戸内海（全域）では年間500～1000トン内外で資源的にはごく小さいものであるが、昨年と今年の増量は注目すべき現象と思われる。　（浜田）



のり養殖安定のために

＝基本的な考え方＝

神戸市西部、明石市沿岸では、ここ数年前から冬の閑漁期を埋めるために、浮流式によるノリ養殖が導入されている。

昨年には網ひびも六千枚程度にふえ、県下では養殖の新興地ともいえるが、失敗をまねかないために、去る三月垂水公会堂に関係業者百名が集り現地診断による研究会が行なわれた。

講師の東海区水産研究所須藤増殖部長は「浮流し養殖は歴史も浅く、固定式に比べて研究も少ないので」と、ノリ養殖に対する基本的な考え方を話された。

養殖シーズンを目前にひかえ、その概要をまとめてみました。

どこでも新……漁場はよい

新らしく開かれた漁場の共通点として一～二年目は、どこでも成績が良い。初めのうちは漁場にも余裕があるし、教えられたことを忠実に守り、一生懸命に管理するからである。

しかし三～四年目になると、網の数も増えてくるし養殖の経験もできて悪くいえば天狗になりがちで、手間を省くというようなことから、不作をまねいている例が多い。

不作の要因には以前では、タネつけの失敗、種付後の管理や天候の不良が主な原因であったが、現在では人工採苗によって、一応種付の失敗が解消した反面、いろいろな問題が併発している。

早作はトク……にならない

その第一は人工採苗による種の早つけや付け過ぎが、密植につながるという点である。近年値段の良いことから早どりしようという傾向があるが、これは考えものである。

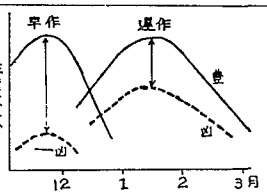
図でもわかるように、遅作では豊凶の差が狭く生産期間が長いのに比べ、早作は豊凶差の巾も広く、凶作時の生産減退が著じるしい。要するに早どりは余りトクにならない。

それぞれの漁場にはノリの出来る限度があり、密植という言葉が生れるわけでもある。この限度はその年や時期によっても違うし、その原因もはっきりわかっていない。

密植には二……つのタイプ

一口に密植といっても、「どの程度が密植か」という漁場に対する基準が現在のところ出ていない。過去からの養殖実績をもとに経験的にしか割り出せないのが現状といえよう。

密植といえるものに二つの場合が考えられる。その第一に、網面積と漁場面積との割合がある。



一対二・五　完全なる密植
一〃三　狭漁場の最低
一〃四　平均的な割合
一〃五　広漁場の最低

第二の場合は網の重ね枚数があげられる。採苗時には多く重ねてもよいが三〇枚以内。採苗後一潮目で六枚以下、二潮目では三～四枚以下にするのが標準になっている。

移植の場合……種網を選定

すべての養殖は良い種苗の確保によって成り立つわけで、ノリの場合でも、タネが弱っているため移植後に被害のでることが多い。

現段階では品種の選定は検討できにくい。ただ水温の高い所から低い所へ移す方がよいので、種付の遅いところからの移植が望ましい。また移入先の選定も重要な要件といえる。

さらに移植後の管理についても、干出大では小芽が痛みやすい。干出が少ないとクサレが出るなどと混乱しているが、一般的にいえることは、元気な芽は干出してもよいが、弱った芽は一週間ほど養生してから干出する方がよい。

（芽の健康診断にエリスロシン染色法がある。この方法では死細胞は赤く染るが、弱っている芽は染色されないので、淡水に一時間漬けてから染色すると、元気な芽は染らないが弱ったものは赤く染まる。）

神戸沿岸の……漁場を見て

近年、都市や工場の附近で汚水による影響が出ている。汚水の目安としてCOD（化学的酸素要求量）により、おおざっぱにいえば、5PPM以上ではノリはできない。4PPMが警戒点、当地のデーターによれば3PPM以下で安全圏内といえる。（注・1PPMとは一〇〇万分の一を示す単位）

浮流しの網の張り方は、一述に一〇〇枚もの網を並べているのもあるが、中心部では流れが阻止されるから、三～四〇枚を限度して水路間隔を作る必要がある。

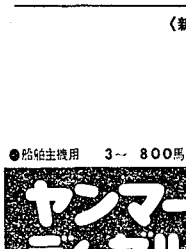
水温が早く冷える愛知からの種網の移入が多いので、移植後あまり早く伸ばさないよう、管理に注意することも大切である。

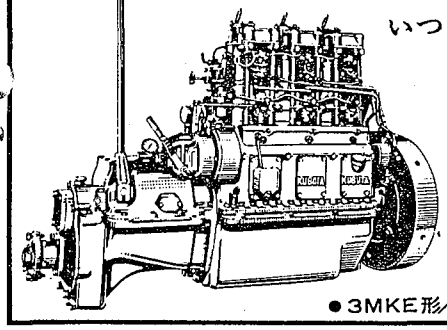
（水産課仲野技師）

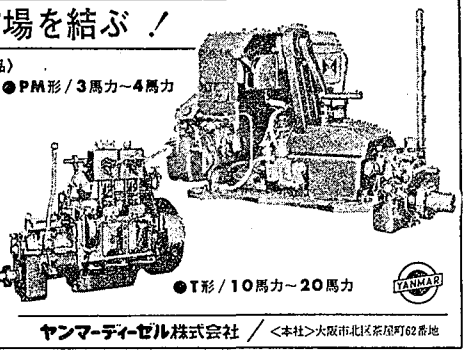
魚類の視覚について

魚類の光に対する感覚器としては一般に頭部に1対の目をもっている。眼は球形で角膜、水晶体、網膜などを有し、ほ乳類と同様であるが普通動くことができる「まぶた」が欠けている。また水晶体の形状はいわゆるレンズ形でなく球形となっているところがほ乳類と異なっている。したがって魚類は睡眠中であっても目を閉じることがなく、外界の事物を見るには前記の球形の水晶体を前後に動かすことにより網膜にその形をうつさせるのである。

魚類が水中で物が見える距離は短くて近視であるといわれているが、一例ではあるがカゴカキダイを用いて海水中で行なわれた調査によると空気中で人間の可視距離の5分の1であったと報告されている。また魚類は従来色盲のように思われていたが、近時条件反射による実験や天然に美麗な魚が多いことや産卵期に色の変化するものがあることなどから考えて色に対する感覚があることは確実で、人間にとっては色として感じられない紫外線でも色として感じられるようである　（常）


新鋭機出現
ニューフィッシュグラフ
ＮＦ－12魚群探知機
NEC
の技術を誇る
画期的な漁業用魚探機
海上電機株式会社
本社　東京都千代田区神田錦町1～19　電話　東京(291)2611～3・8181～3
神戸営業所　神戸市生田区明石町32(明海ビル)　電話(39)4301代・(33)3706 ビル交換

クボタ マリンディーゼル
いつも漁場に一番のり
●主機用　4～1000馬力
●補機用　8～3000馬力

クボタ
国つくりから米つくりまで
久保田鉄工
●3MKE形／35馬力

YANMAR DIESEL ENGINE
● 漁場と市場を結ぶ！
〈新製品〉
●PM形／3馬力～4馬力

●船舶主機用　3～800馬力
ヤンマーディーゼル
●T形／10馬力～20馬力
ヤンマーディーゼル株式会社／〈本社〉大阪市北区茶屋町62番地

秋期の養魚場管理

—酸素不足に注意—

初秋になると内湾の表層水は気温の影響をうけて冷却され、密度が大きくなるので下降し、底層水は上昇、いわゆる対流現象が起る。

本年は9月12日以降の急激な気温の低下で、9月中旬から顕著な対流現象が起っている。

特に、ハマチ養魚場では底は残餌、魚体の排泄物等により酸素量が非常に少なくなっているから、対流が起これば底層の水が上昇し表層の比較的酸素量が多い海水は下降して酸素が消費され、さらにハマチの酸素消費と相まって、養魚場全体が酸素量の欠乏状態になる。

従って、ハマチの游泳状態、その放養密度に充分注意し、小潮の干潮が夜半から早朝に当る9～10月頃には充分注意して頂きたい。

小割網であれば、網の交換、網の移動を行ない、仕切網であれば、網の付着物の掃除を徹底的に行なうか、網を交換して、海水の交流をよくすることが大切である。

養魚場の酸素量が少なくなると、ハマチは斃死しなくても、餌の喰いは少なくなり、成長がおくれる。

万一斃死魚体が出た場合には、その斃死原因が何に原因したかを充分検討して欲しい。

むやみに、死亡原因を追求せず、薬剤の投与は避けて欲しいと思う。

その際は気軽に、水産試験場へ連絡して頂くようお願いすると共に、常に魚の放養密度に注意し、海水の交流をよくするよう管理して欲しい。

（水試・片嶋）

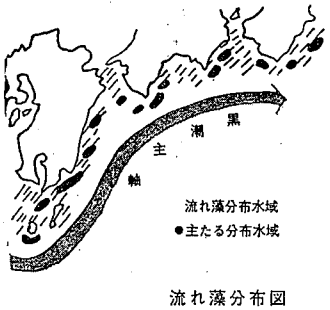
季節の魚 (5) ハマチ

我が国の北海道から東シナ海にまで分布し、地方によってその呼び名もまちまちであるが、産卵後数カ月以内で、流れ藻につく時代を「モジャコ」（15cm位迄）モジャコ期より30cm位まで「シヨッコ」・「ワカシ」・「ワカナゴ」・「ツバス」1年前後30cm～50cm「イナダ」・「ハマチ」2年前後「ワラサ」・「メジロ」それ以降を「ブリ」などが一般の呼び名である。成魚のブリは毎年冬期太平洋岸に沿って土佐湾、日向灘を南下し種子島、屋久島周辺、奄美大島から南西諸島への黒潮内側に（陸側）来遊するが、外側に来遊するのは極めて稀で、従って親魚の主な来遊域は種子島、屋久島に並んだ黒潮内側に沿った水域であり、産卵場も主にこの水域になると見られる。ブリの産卵がはじまるのは2月から、稚仔は日本沿岸域に補給される3月から5月にかけて水温最低期から上昇期に当り、この初春から初夏にかけての時期の海況（黒潮主軸の都井岬、潮岬の離接）の変動がブリ稚仔来遊状況に大きく左右すると考えられる。稚仔時代は極めて表層を遊泳しながら北上している。ブリ稚仔は黒潮内側の沿岸～混合水域に多く分布、北方に漂流する流れ藻の下に密集して生活する習性を持つ。通常流れ藻につくモジャコ量は時期始め3月～4月上旬では少なく、4月中旬～5月のある時期にモジャコ量は急激に増大する。

出現量の年変化は昭和29年前後、34年～37年に山が、32年、38年に谷がありほぼ6年周期が見られる。また沿岸寄りの潮目に分布する流れ藻にはモジャコが付いていないか、付いていてもその量は少なくやや沖合の潮目に分布する流れ藻に集中的に付いている場合が多い、漁場としては鹿児島湾口、油津周辺～土佐湾沖合、芸東～海部沿岸、紀南沿岸及び椿野崎が主漁場となっている。内海には紀南沿岸、海部沿岸に補給されたモジャコが黒潮分枝流にのって、次第に成長しながら紀伊水道に入り込み、友ケ島水道～明石瀬戸に達するものと一方鳴門海峡を経て播磨灘、備讃瀬戸に達するものとがある。入り込み水温は大体18°C台で、盛漁期の水温は年により多少の変動はあるが、25°～26°Cで、大体20°C～18°Cに下ると外海に逸脱する傾向となる。

入り込み当初の体長は10cm～15cmのものであるが、11月中旬～12月上旬の外海逸脱期には40cm～50cmぢまでに成長する。漁場は友ケ島水道、鳴門海峡南北海域。大阪湾北西部、播磨灘東部が主漁場で曳縄、一本釣、五智網で漁獲され8月から盛漁期に入り、9月を頂点として10月下旬より次第に外海海域に移動する。県下内海側年間漁獲量は過去昭和31年～40年まで10カ年の農林統計から見ると好漁年で300トン、不漁年で150トンとなっており、昭和37年の319トンを最高に40年315トン、36年294トンの順で、33年の33トン、32年の83トンが最も不漁年となっている。

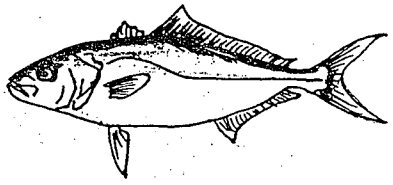
近年ハマチの養殖事業が全国的に盛大に行なわれるようになったが、香川県大川郡安戸池において野網佐吉氏が1928年頃にハマチの養殖に着手したのが世界における養殖事業の草分けとされている。兵庫県でもその歴史が古く、1933年頃福良においてハマチの短期蓄養を始めたが、第2次世界大戦で中断した。戦後兵庫県では前阪本知事提唱による海の牧場として福良湾でハマチ養殖事業が開始され、現在由良、福良、家島、丸山で盛大に養殖され全国的に有名になり、天然ハマチ年間漁獲量（150トン～300トン）も影が薄く感じられる昨今である。（岩井）



流れ藻分布図

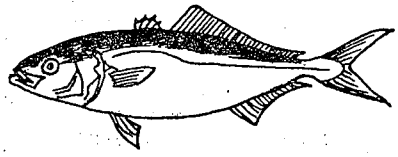
モジヤコ漁場図

（ぶ　り）



（かんぱち）

（原色動物大図鑑より抜萃）



県水試

明年3月竣工予定

さる9月25日、明石市中崎海岸埋め立て地で、細井県農林部長、吉川明石市長、三浦県漁連会長ほか多数出席の上、県水試の新築工業地鎮祭が行なわれた。

同試験場の現庁舎は戦災後建設されたもので、建物、設備とも老朽化し、時代に即応した試験研究の遂行が困難な状態であったため、近代的な新らしい試験場の建設は斯界からも強く要望されていた。

完成後は近代漁業のあらゆる試験研究設備をそなえて、漁民の要請に応えようと井沢場長をはじめ全場員は今から大いに張り切っている。

（主な内容）

敷地は明石市中崎海岸埋立地の約1万平方mで、コンクリート2階建の本館のほかに室内飼育実験棟、加工実験棟、室内飼育池上家棟など五むねのほか屋外実験池が三個設けられる。また常温飼育室、冷凍機室、加工実験室など従来なかった設備が予定され、最近関心の高まってきた冷凍魚の基礎研究などに利用できる。

総工費は1億6,500万円、昭和43年3月末に完成する予定である。

漁協婦人部欄　あゆみ

私達の単協にも婦人部が結成されて早十年、当時を思い起す時そのめざましき発展といいたいのですけれども昨今の私達は本当の有名無実と、何ら変らない存在になってしまいました。

もの珍らしさも手伝って熱心な部長のもとに内職、購買品等のあつかい、グループ作りで話し合ったり今まで知らなかった人達とも交流ができて本当に楽しい集いの場を持ったものでしたが…。いつのまにかその日労働に追われる者にとって、この婦人部こそ本当にうれしい有難い集いの場でした…。始めて私が県立水産会館へ部長と共に出席した時その立派さ、その盛大さ更に部員と皆さんの意気盛んなものに田舎者は目を丸くし驚きに休はガタガタとふるえたものでした。淡路地区の集いとして活発な皆さんの姿に一言の発言すらできなかった私でした。

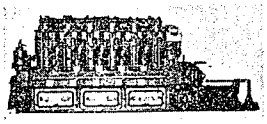
アッという間に若い人達から中年までほとんどの人達が職場へ出るようになり集ることのむつかしさ、購買当番の休み等障害ができてきました。けれども知らなかった方々と交流ができたこと、漁村の片すみで一日労働に追われる者にとって、この婦人部こそ本当にうれしい有難い集いの場でした…。始めて私が県立水産会館へ部長と共に出席した時その立派さ、その盛大さ更に部員と皆さんの意気盛んなものに田舎者は目を丸くし驚きに休はガタガタとふるえたものでした。淡路地区の集いとして活発な皆さんの姿に一言の発言すらできなかった私でした。

本当に井の中の蛙でしかなかった私を御指導御鞭撻下さった関係方面の諸先生方に何んと御礼を申し上げてよいやら、自分がその大役を無事終えたことのよろこびよりも、なみなみならぬご恩に何んらむくゆることができなかったことを恥かしく存じております。先般福良へ行った折何か書いて出すよう申されておりましたが、ただ平々凡々の自分には何をどう書いていいやら思案に暮れるばかりです。

会合に出て講師先生のお話しを、又研修会での皆さんの御意見の発表等思い出して本当によかったとしみじみ思わずにはおられません。わけても始めて東京へ出席させていただいた時の江川ひろし先生の話し方についての、中の人間関係のお話しが今も尚耳に新しく残っております。家族と話し合いで明るい家庭を作りたいと今まで取りくんで来ました。

まだ長女が中学に行っておりました時にPTAの町内合同会議にもいろいろの議題が出ました中に、子供を良くするためにはやはり明るい家庭が一番だ非行少年は明るい家からは出ないということでございました。その前年に婦人部でこの問題が論議されておりました。よく娘が議長で家庭会議を開いたものです。槍玉に上がるのが主人で酒量をへらして下さいで適量だいやそうではないで、その日の会議は終わりになったり時には定例を破る非常召集もあって、くだらん、くだらんとこぼす祖父等和気あいあいたるものでしたが、その心配の種の酒量のせいかどうか主人は胃カイヨウになり議長の娘は嫁に行き、後つぎの長男は就職で大阪へそして父母は八十余歳のもう手のかかる年になり私も自分ではまだまだと思っているのに足腰が痛くなる年になって十年過ぎた我家も私達の単協のように淋しい活気のないものになってしまいました。この頃はやりのパパぬきカーあるいは私の一日が夜明けと共にやって来ました。せめて子供達が帰って来た日は又話のはずむ一日をと思い主人はディゼルエンヂンに取り替え、又その返済に苦労がひとつふえたとこぼし年らも多忙な明け暮れに追われる私の一日が夜明けと共にやって来ました。せめて子供達が帰って来た日は又話のはずむ一日をと思い、元気を取り戻した主人はディゼルエンヂンに取り替え、又その返済に苦労がひとつふえたとこぼし年らも多忙な明け暮れに追われる私の一日が夜明けと共にやって来ました。せめて子供達が帰って来た日は又話のはずむ一日をと思いつつ……。

（郡家・森田久子）

神戸赤ディーゼル
（使う身になって作る赤機械）
堅牢！高出力！経済的！

・N623RS350PS・
（低速機，全長3.9米）
▶舶用主機関◀
・低速4サイクルディーゼル 240～1,600馬力
・中速ディーゼル 650・700・1,300馬力
・三菱2サイクルディーゼル 1,500～8,200馬力 各種
神戸発動機株式会社
本社及工場　神戸市兵庫区須佐野通8丁目10　TEL（078）㊗5031～6
支店及出張所　長崎（工場及支店）東京，下関，北海道，仙台，今治

どっこばらんあんど

(18) もっとも

親に孝行するのは、大正生れのぼくらにはあたりまえのこと。しまつして、一旦かん急に備えるのも、借りたものを返えすのも至極あたりまえのことなら、貸したものをもらうのもこれまた当然のこと。

だが、このもっともなことや、然るべきことがわかっていながら、おいそれとできにくい。

集金事務の実際とその内容の複雑性とについての、身にしみた経験のないものは、やれ「魚を売った代金だ。当然もらえる筈のものが、何故貰えない」やれ「そんなことは絶対ないはずで売掛金を残すと、札止めという宝の刀が光っているではないか」

等と厳直にのたもう。

機械と機械のメカニズムならいざ知らず、感情と勘定の交さくし合う集金事務は、人に知れない、言葉にならない縁の下の力持ち的努力や苦労や、それにからまるいろいろなめんどくさい問題がついて廻り、その迷いから他の迷いが出てくる。

集金ということに熱心になれば之なる程、そう簡単に二一天作の五で割り切れる問題ではないということは体験者なら心得があるはずだ。

一寸話のすじみちは違うかもしれないが、「債務者の優越、債権者の困惑」というのが現在の状況だ。

売り掛金回収の不円滑
貸し倒れ増加

が経営不振の一つの因をなし、悪くいけば倒産というし、悪くいけば倒産というし、悪くいけば倒産という